

第34回 熊本県中学校 新人サッカー大会

小川中 6年ぶり4度目の優勝

第34回熊本県中学校新人サッカー大会は1月28日・29日に各郡市代表16チームが4パールの分け、予選リーグが行われた。決勝トーナメントには各パールの上位2チーム(計8チーム)が進出し、2月4日に1回戦が行われた。その結果、小川・菊陽・宇土・鶴城・竜北が準決勝へと進んだ。

大会最終日の2月11日に、宇城市観音山グラウンドで準決勝・決勝が行われた。

準決勝では小川が菊陽に4対1で勝利し、竜北対宇土・鶴城は接戦の末、3対2で竜北が競り勝ち、決勝に進出した。

決勝戦は前半、竜北がしっかりと守備でボールを奪い、スペースへの縦パスでチャンスを作った。一方、小川もワイドな展開で竜北ゴールに迫るなど互角の内容で無得点のまま終了した。

後半に入り、小川⑥吉村が右サイドを突破し、中央へパス、相手選手に当たり方向が変わり、先制した。

その後も小川⑬篠塚が右サイドからのボールに合わせて2点目、さらに⑪藤崎が中央から3点目を決めた。竜北も反撃し、ゴール前まで攻めたが、得点することができず、小川が見事6年ぶり4度目の優勝を果たした。

両チームは3月3日から宮崎で行われる九州大会に出場する。

第34回熊本県中学新人サッカー大会試合結果

小川町観音山グラウンド

決勝トーナメント1回戦

チーム名	試合結果	チーム名
小川	3 (1-0 2-0)	人吉一
坂瀬川	0 (0-1 0-2)	菊陽

チーム名	試合結果	チーム名
熊本西原	0 (0-1 0-3)	宇土鶴城
竜北	2 (1-0 1-0)	嘉島

小川 3 0 0 0 0 0 竜北	▽決勝	竜北 3 2 0 1 2 2 宇土鶴城
小川 4 2 1 2 0 1 菊陽	▽準決勝	

小川中学校、菊陽中学校、宇土鶴城中学校、竜北中学校は、2月11日(土)の準決勝に進出した。

予選リーグ戦成績表

Aグループ

	1山鹿	2小川	3帯山	4鶴城	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	順位
1山鹿	☆	1-5	1-0	0-0	4	1	1	1	2	5	-3	3
2小川	5-1	☆	3-1	1-0	9	3	0	0	9	2	+7	①
3帯山	0-1	1-3	☆	1-3	0	0	0	3	2	7	-5	4
4宇土鶴城	0-0	0-1	3-1	☆	4	1	1	1	3	2	+1	②

Bグループ

	5人吉一	6大津	7西原	8玉南	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	順位
5人吉一	☆	0-0	1-0	1-1	5	1	2	0	2	1	+1	②
6大津	0-0	☆	1-2	2-0	4	1	1	1	3	2	+1	3
7熊本西原	0-1	2-1	☆	3-0	6	2	0	1	5	2	+3	①
8玉南	1-1	0-2	0-3	☆	1	0	1	2	1	6	-5	4

Cグループ

	9荒尾四	10坂瀬川	11嘉島	12水俣一	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	順位
9荒尾四	☆	1-1	0-2	0-2	1	0	1	2	1	5	-4	4
10坂瀬川	1-1	☆	1-0	2-1	7	2	1	0	4	2	+2	①
11嘉島	2-0	0-1	☆	2-1	6	2	0	1	4	2	+2	②
12水俣一	2-0	1-2	1-2	☆	3	1	0	2	4	4	0	3

Dグループ

	13八代二	14菊陽	15ルーテル	16竜北	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	順位
13八代二	☆	0-2	3-2	0-3	3	1	0	2	3	7	-4	4
14菊陽	2-0	☆	2-0	0-3	6	2	0	1	4	3	+1	②
15ルーテル	2-3	0-2	☆	3-0	3	1	0	2	5	5	0	3
16竜北	3-0	3-0	0-3	☆	6	2	0	1	6	3	+3	①



赤は小川中 青は竜北中
写真と文共に (出)熊本県サッカー協会 広報(中学委員会出向) 委員 水本賢治

第37回 熊本県少年サッカー選手権大会 アスフィーダ 熊本 プライマリー優勝

第37回熊本県少年サッカー選手権大会は2月11日、12日、19日の3日間、七城グラウンドなど菊池郡市を中心に行われた。

この大会には各郡市を勝ち抜いた代表及び熊日学童でベスト4に入った30チームが優勝を目指して戦った。

大会3日目まで勝ち残ったのは、リベルタ北熊本FC、山鹿FCジュニア、アスフィーダ熊本プライマリー、ブレイズ熊本ジュニアの4チーム。

準決勝第一試合は、リベルタ北熊本対山鹿FCジュニア。

前半2対1、後半も2対1でリベルタの勝利。

準決勝第二試合目はアスフィーダ熊本対ブレイズ熊本ジュニア。

前半2対1、後半0対0でアスフィーダ熊本プライマリーが決勝戦に進出。

決勝戦は、アスフィーダ熊本プライマリー対リベルタ北熊本FC。

前半は両チーム一歩も譲らず0対0で折り返した。

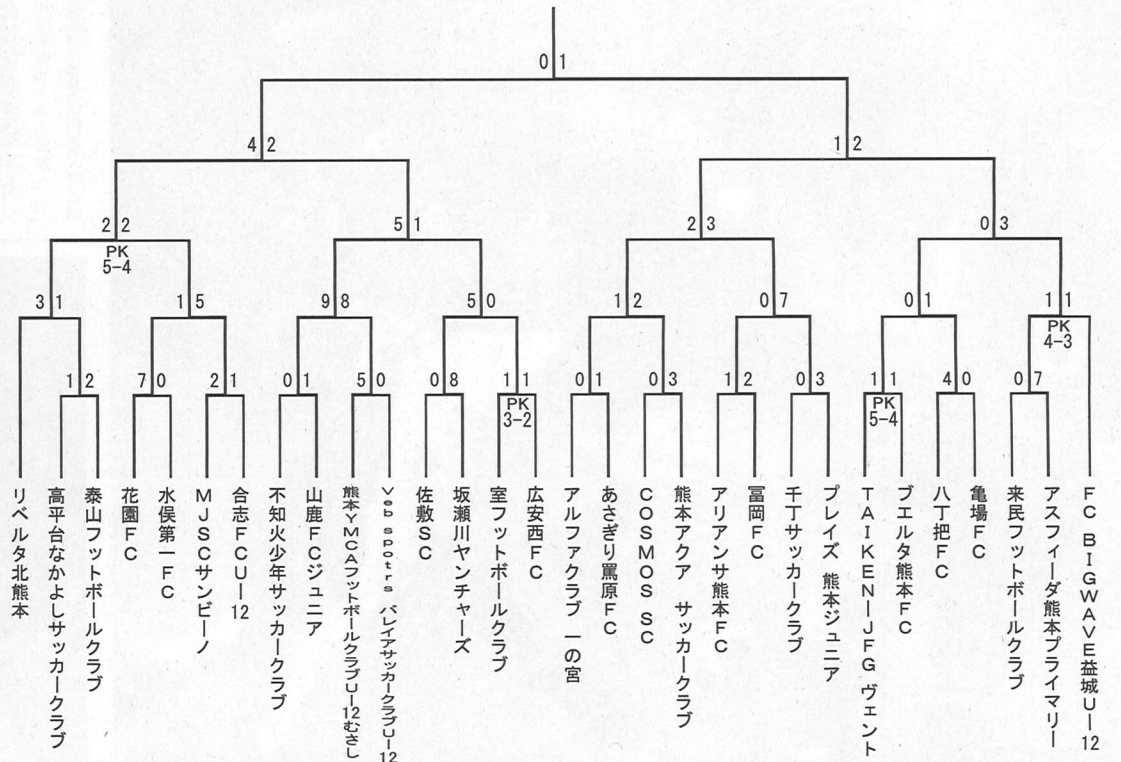
後半はアスフィーダ熊本プライマリーが1点を守りぬいて優勝を果たした。

本大会の決勝戦に進んだ二チームアスフィーダ熊本とリベルタ北熊本FCは3月長崎県で行われる、九州大会へ熊本県代表として出場することになっている。

(社)熊本県サッカー協会
広報委員(小学生出向) 林田 晋



喜ぶアスフィーダのイレブン



第27回 熊本県少年サッカー新人大大会 熊本ユナイテッドサッカークラブU-12ながみね優勝

第27回熊本県少年サッカー新人大大会は、2月11日、12日、19日の3日間、豊川G、豊福Gなど下益城地区5会場で行われた。

この大会には各郡市を勝ち抜いた代表32チームが熱戦を繰り広げた。

3日目には、シャルムFC熊本(熊本市)、熊本ユナイテッドSC(熊本市)、小川FC(下益城)、ブレイズ熊本キッカーズ(熊本市)の4チームが勝ち残った。

準決勝第一試合のシャルムFC対ユナイテッドは、接戦を制したユナイテッドが3対2で決勝進出を決めた。

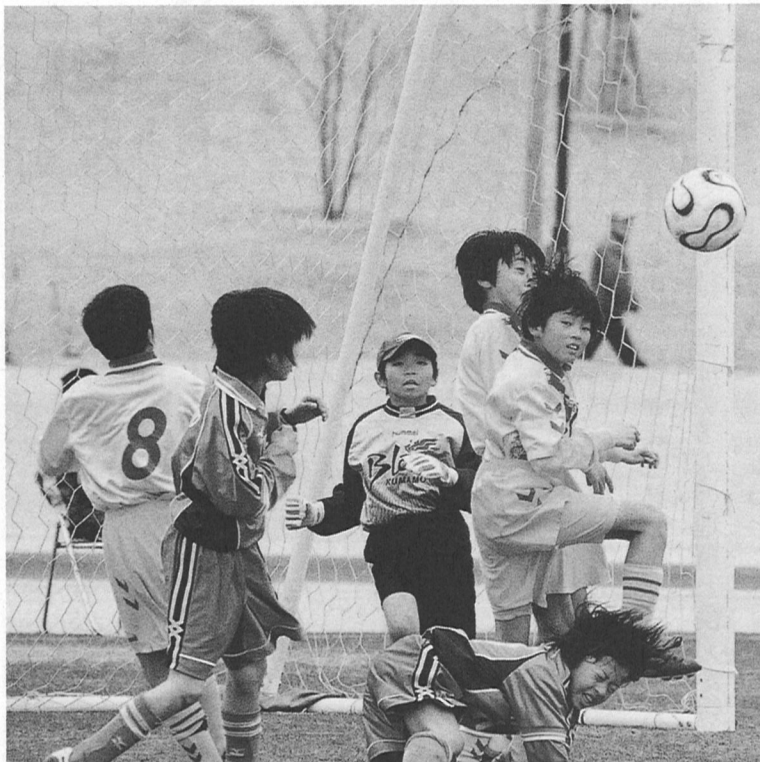
第2試合は、小川FC対ブレイズは、前半1点差を返し、ブレイズが6対1で勝利する。決勝は熊本ユナイテッド対ブレイズ熊本となった。

DFの組織力の高さでサイド攻撃を生かして前半1対0後半も1点を加え、ブレイズが2点リードした。

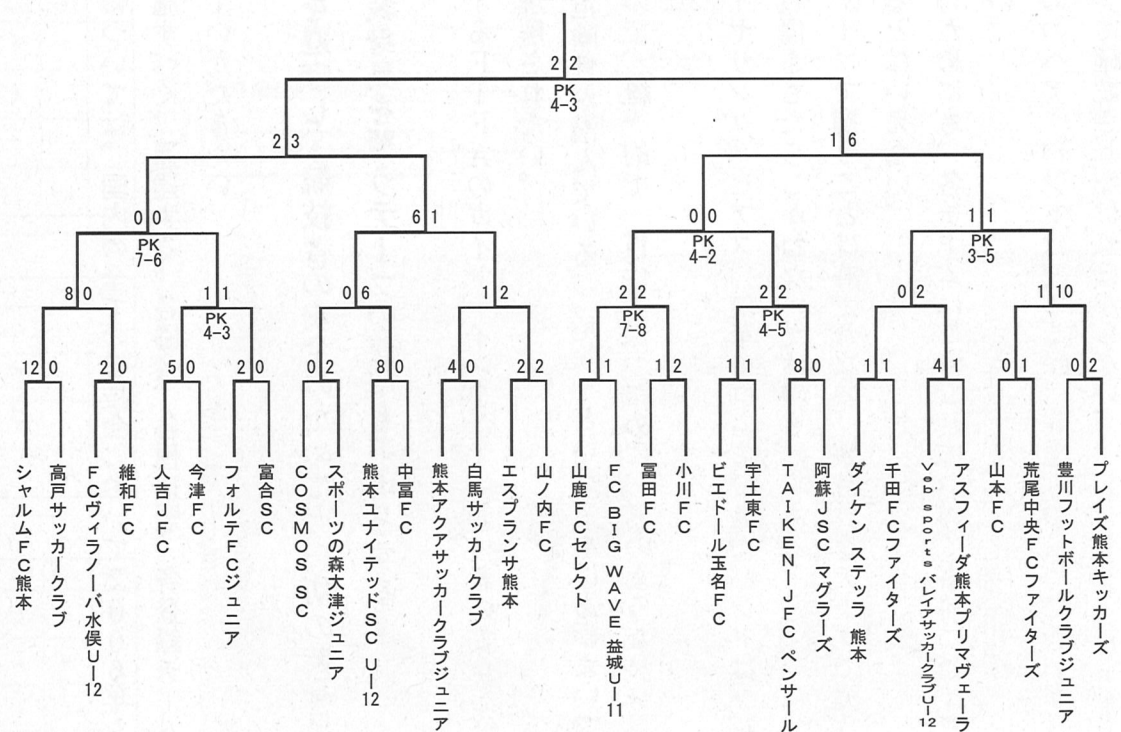
しかし、後半6分にユナイテッドは21番松田天馬をFWに上げ反撃をはかり、個人技を生かすことで2点を返し後半2対2の同点に追いついた。

延長は両チーム無得点のまま終わり、PK戦を4対3でものにした熊本ユナイテッドが優勝を果たした。

本大会の上位2チームは3月福岡県で行われる九州大会に本県代表として出場する。



青は熊本ユナイテッドSC黄はブレイズ



第40回 熊本県サッカーリーグ 入替戦始まる

2部のWell-B熊本は来年度は1部へ 益城ビッグウェーブは1部残留

第40回熊本県サッカーリーグ戦の入替戦は1月15日から2月12日の間毎週日曜日に熊本県運動公園サッカー場で行われた。

松橋クラブ対FC・Rainは2対1で松橋クラブの勝利。

鶴屋百貨店サッカー部対オウゴンゴールは5対2で鶴屋百貨店の勝利。

八代フューチャーズ対チャパーズは1対1の後PK戦で3対2で八代フューチャーズの勝利。

QUNENH対IECは1対1の後PK戦で5対4でQUNENHの勝利。

勝利した4チームは平成18年度の県リーグは2部昇格となった。負けた4チームは次の通り入替戦に再出場となる。

平成17年2月5日運動公園サッカー場にて行う。

①熊本ドリフVS IEC、②小川クラブVSオウゴンゴール、③バレイアSCVSFC Rain、④小岱クラブVSチャパーズ

試合の結果は次の通り。

①IEC対熊本ドリフ3対1でIECの勝利。来年度はIECは2部へ昇格。

②小川クラブ対オウゴンゴールは1対0で小川クラブの勝利、小川クラブは来年度も2部残留。

③バレイアSC対FC Rainは3対0バレイアSCの勝利、

勝利したバレイアSCは来年度も2部残留。

④の小岱クラブ対チャパーズは3対1で小岱クラブの勝利、勝利した小岱クラブは来年度も2部残留が決定した。

2月12日の日曜は1部の入替戦が行われる。

①Well B熊本対1部8位の熊本FCは5対2でWell B熊本の勝利。

勝利したWell B熊本は来年度は1部昇格。

②益城ビッグウェーブ対竜北クラブは5対2で益城ビッグウェーブが勝利し、来年度も1部残留が決定する。

(熊本県サッカー協会 広報委員会 編集)



青はWell-B熊本、白は熊本FC

(財)日本サッカー協会審判委員会

装身具着用の禁止(通達)

―競技者の安全のために―

競技規則 第4条「競技者の用具」には、全ての競技者の安全のために、「競技者は、自分自身あるいは他の競技者に危険となるような用具やその他のもの(装身具を含む)を身につけてはならない。」と記されている。

国際サッカー連盟(FIFA)は、競技規則 第4条を徹底させるために、2005年に開催された全てのFIFAの大会において、参加チームに対して競技規則のガイドラインを示し、装身具着用の禁止と装身具を覆うためのテープ使用の禁止をうたった。それぞれの大会では、参加チームの理解と協力が得られたことによって、用具の安全性が保たれ、装身具の問題はほとんど見られなかったとのことである。

そこで、装身具着用については、国内の全ての競技会において2006年シーズンより次のように実施すべく、通達する。各協会、各種連盟、各登録チームにおいて周知徹底を図っていただきたい。

『競技規則第4条を遵守し、競技者の安全のために、一切の装身具の着用を禁止し、装身具を覆うテープの使用も不可とする。』

以下に、装身具に関するFIFAのガイドラインを示す。競技者の安全を守るための考え方を十分に理解されたい。

*すべての装身具には危険性が潜んでいる。「危険」という言葉はあいまいで議論を呼ぶことになるので、統一的で一貫性を保つために、どのような装身具であっても禁止する。

*ネックレス、指輪、イヤリング、ピアス、皮革やゴムでできたバンドはプレーに不必要なもので、負傷をもたらしかねないだけのものである。

*競技者は、装身具をテープで覆うことは許されない。装身具をテープで覆うことで適切に保護できるとはいえない。

*試合直前に混乱しないためにも、各チームはこのことについて事前に競技者に伝えなければならない。

尚、長髪を束ねるためのヘアバンドは認めるが、安全性のために適切な材質、長さ、幅が主審によって確認されなければならない。